

2024

法政大学大学院経営学研究科

法政ビジネススクール





李 瑞雪

ビジネススクールに入学を検討する理由は、多岐にわたるものが あります。職場での課題を解決する方法を見つけたい方や、国際ビ ジネスの基礎を学びたい方、転職や起業のための知的準備をした い方、経営学の研究者になりたい方など、様々な目的を持つ方がい らっしゃいます。法政大学のビジネススクール(HBS)は、そうした多 様なニーズに対応できる柔軟な教育体制と幅広い専門領域をカ バーする教員組織を持ち、皆様の期待に応える「道場」です。

HBSの最大の特徴は、大規模な経営学部を母体としているた め、40人以上の専任教員が在籍しており、マーケティング、経営戦 略、組織マネジメント、人的資源管理、アカウンティング、ファイナン ス、国際ビジネス、オペレーションズ・マネジメント、経済学、データ サイエンスなど各分野の研究者が教育に携わっています。このよう に厚みのある教員陣を活かし、個々の学生の特性や問題関心に合 わせたきめ細かい教育を提供していることが、HBSの大きな強みの 一つです。特に、1対1または1対少人数の論文・リサーチペーパー 指導を行っており、コース制による集団指導とのバランスを取って います。

教育方法には、ビジネススクールの代表的な手法であるケースメ ソッドやアクティブラーニングを取り入れています。具体的なケース スタディを用いたディスカッションを通じて、学生は分析能力や問 題解決能力を高めることができます。しかしながら、ケースメソッド には個別事象に囚われかねないという限界があるため、HBSは、汎 用性の高い理論や分析フレームワークに重点を置いたカリキュラ ムも一貫して提供し、活発なディスカッションと丁寧なレクチャーを 組み合わせています。また、最新の研究知見を授業に取り入れなが ら、理論と実践知を融合させて、確固たる知的基盤と広い視野を養 うことに努めております。

HBSは、日本の私立大学の中で最も早く設立された社会人向け 夜間大学院として、1992年の創立以来、1,000名ほどの卒業生を 輩出してきました。卒業生同士のネットワークの構築とともに、HBS は教育にも多くのフィードバックを受けています。特に、夜間コース のワークショップでは、ビジネスの第一線で活躍される卒業生が登 壇して、自らの創業経験や最新のビジネス動向、直面する課題など を共有し、参加者同士でアイデアを交換する場を提供しています。 講演後のディスカッションはいつも1時間以上にわたり、参加者同 士が刺激し合いながら、互いのつながりを深めています。

HBSは近年、MBAへのニーズの変化に対応し、積極的にコース の再編を行ってきました。社会人向けの国際経営コースとアカウ ンティング・ファイナンスコースを統廃合する一方で、マーティング、 ヒューマンリソース、戦略などの需要が高まっている分野に関する コースを強化しています。さらに、全日制の昼間コースの充実を推進 しております。昼間コースでは、伝統的な研究者育成の役割に加え て、高度な国際職業人の養成にも注力しており、そのためのカリキュ ラムと指導体制の見直しを進めてきました。実務家がアカデミック な世界へ進出するためのニーズに応える形で、社会人向けの博士 後期課程にも力を入れ、積極的に実践経験豊かな経営学の研究 者を育成しております。

現代社会は、人工知能やバイオテクノロジーの進化、脱炭素化 やデジタルトランスフォーメーションの進行、グローバリゼーション に対する反発とそれに伴う地政学的なリスクの増加、少子高齢化 などの社会問題が引き起こすビジネスの不確実性が増しています。 それでも多くの機会が生まれています。このような状況下で、企業や 個人が不確実性に対応し、チャンスを掴むには、人的資源への継 続的な投資が必須となります。HBSは、このような状況を踏まえ、ビ ジネスパーソンの成長を支援する社会的使命を強く持ち、高度な 職業人の「道場」として、皆様が直面する課題に対応し、知識やスキ ルの習得をサポートする場を提供し続けていきます。私たちHBS一 同は、皆様がここで新たな挑戦を始めることを心から歓迎し、皆様 の夢を叶えるお手伝いができることを願っています。ぜひ、HBSでの 学びと成長を共に歩んでいきましょう。

2024年度 企業家養成コース

経営トップ/プロにふさわしい洞察力を鍛える

容度 教授

企業家養成コースは1992年の開講以来、 昇進や承継、創業により経営者・経営幹部に なられた修了生を輩出してきました。本コー スでは、経営層・創業を志す人はもちろん、企 業内で新たな事業や取り組みに挑戦しようと する人、事業の承継を志す人、企業家の支援

に携わる人、社会問題の解決に取り組む人など、幅広い「企業家」を想定 し、その洞察力を徹底的に鍛えられるよう、お手伝いをしていきます。

企業家が直面する状況は常に新しく、将来は常に不確実です。その中 で的確な決断を下すためには、表面的・一時的な現象ではなく、本質を 鋭く見通す洞察力が必須です。企業家養成コースでは、この力を磨くため に、まずは経営学の基礎的かつ多様な考え方をしっかりと身に付けるこ とを重視しています。

例えば、「ワークショップ」は、企業家本人の口から語られる経験を聴く 場です。第一線で活躍している企業家をゲストとして招き、企業や事業を 起こした経緯・動機、そのときの苦労や問題点、現在直面している経営上 の課題や対応策などについてお話しいただき、議論を深めていきます。こ の双方向的な授業を通じて、参加者は語られる言葉の行間を読み込む とともに、企業家の置かれた立場を想像し、追体験しながら、企業経営の 本質を考えることになります。

また、企業家活動、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企 業間関係論、企業家史、経営史など、企業家の洞察力涵養に欠かせない

科目も、数多く用意されています。経営者・企業家として、企業や事業の全 体的なあり方を構想し変革を実現していくため、共通科目などを含めた 幅のある学びで経験を相対化しながら、視野の広い長期的な思考枠組 みを培っていきます。経営学は、時代の中で揺れ動く企業経営を冷静に 見つめる、ダイナミックかつ挑戦的な学問です。長年にわたる経営学の分 厚い蓄積の中には、変わりゆく現実を論理的に分析するための有効なア プローチが、数多く詰まっています。それを体系的に学ぶことで、企業家と しての思考力を基礎から鍛えていきます。

2年次には、担当教員の集中的な指導を受けながら、アカデミックな修 土論文を執筆します。これは、様々な科目の中で学んだ経営学のアカデ ミックなアプローチを、自らの手で実践してみる作業にほかなりません。一 見遠回りに見えても、論文を自分自身で執筆する経験を通して、企業家と して必須である論理力・構想力が飛躍的に高まることになります。

本コースには、ビジネスの現場で強い問題意識を持つ多様な経歴の 社会人が集まってきます。在学生同士がそれぞれの経験に基づき、実践

的な議論を展開することで、卒業生も 含む強固なネットワークが構築され、そ れは修了後も大切な財産となります。本 コースで、企業家として必須な洞察力と ネットワークを育みながら、経営トップ や経営のプロフェッショナルへの道を目 指してみませんか。



当コースの授業の様子

●教員紹介

教員名		研究テーマ	教員名	研究テーマ	
稲垣	京輔 教授	企業家活動と組織変革に関する研究	福島 英史 教授	産業発展と事業変革	
金	容度 教授	企業システムの歴史の国際比較、企業間関係に関す る研究	吉田 健二 教授	経営戦略の策定と実行に関する研究	
近能	善範 教授	企業間関係とイノベーション	二階堂行宣 教授	日本経営史・日本経済史	
韓	載香 教授	日本産業史、日本におけるエスニックマイノリティ企 業史研究			

主な開講科目

企業家活動、企業家史、経営史、経営戦略論、イノベーション・マネジメント概論、企業間関係論、企業家養成演習、ワークショップ(企業家養成) *他に夜間コース共通科目(6頁に掲載)がございます。

●MBA修了生・現役生の声

自分に必要な"何か"を得られる2年間

私は大学卒業後、某企業を経験した後、家業を継ぐため現社へ入社しまし た。中国、日本各地での勤務を経ていく中で、このまま経営者となり、この厳し い社会で生き残れるのか、常に自身の中で漠然とした不安を抱えていました。

自主的な学びに物足りなさを感じていた頃、HRSの存在を知りました。立地 や方針もさることながら、MBAとは、ワークショップやケーススタディ、修士論 文とはどういったものか、私は自分に必要な"何か"を得たい一心でHBSの門を叩 きました。HBSの授業は少人数で先生との距離も近く、双方向からの活気ある ものでした。ワークショップでは実経営者の方々の生の声が聞け、踏み込んだ質 問もできました。ケーススタディでは自身の実務上の課題と重なる事柄も多く、 いくつも参考にさせて頂きました。修士論文を書くことには不安を感じておりま したが、実際に担当教授の先生と自身のテーマについて考察し掘り下げる行為 は、先行研究などアカデミックな観点からも実務を見直すことで、これまで気付 祭本 利樹さん (2019年3月修了) サイモト自転車株式会社

けなかった視点でモノを見ることができたように感じます。し かしながら、それまでの日常と学業を両立することは容易では ありませんでした。平日は仕事を早く切り上げて講義、週末も 講義と課題をこなすなど、多忙を極めました。ただ、これまでの

人生で最も勉強し、充実した期間だったのではないかと今は思えます。

HBSを修了して得たこととして、日々起こる様々な事柄に対し、以前より確実 に、論理的に考え、方向性を見出せるようになったと感じます。あとは何より、 価値観を共有できる様々な業界の学友ができたこと、気兼ねなく相談ができる 仲間ができたことが最大の糧と思います。

HBSでは学位や知識、論理的思考に加え、得難い人脈が得られました。私に とってそれらが求めていた"何か"だったように、今後HBSを検討する方にも、求 めている"何か"がきっと見つかることと信じております。



2024年度 人材・組織マネジメントコース

小川 憲彦 教授

人材と組織の課題を考え、実践する人のために

人材・組織マネジメントコースは、法政ビジネススクールが創設された1992年、「人的資源管理コース」としてスタートしました。その後「人材開発コース」、そして現在の「人材・組織マネジメントコース」と名称は変わりましたが、基本的な教育理念は一貫しています。企業等

で現実に生じている人材や組織に関する問題を、アカデミックな理論、実証分析の方法を用いて調査・分析すること、これらをとおして課題の解決 に資するような含意を得て、実践に生かす能力を身につけることです。

本コースの特徴の一つ目は、人事、労働、組織というかなり広範な分野の研究者を専任教員として多く配置していることです。研究テーマが幅広いというだけでなく、バックグラウンドとなる学問分野(経営学、社会学、経済学、心理学など)や実証分析の方法(質的調査、量的調査など)も多様です。したがって、院生は人材と組織を考えるうえで必要なさまざまな理論的知識、思考方法を学び、それらを実践的な課題解決に生かす応用力を身につけることができます。

本コースの特徴の二つ目は丁寧な修士論文指導です。論文指導は、一 人ひとりの学生を受け持つ指導教員が主に行います。このほかにも、研究 テーマの構想やプロポーザルの発表、中間段階の研究報告など節目、節 目で、コースの全教員と全院生が参加して一日がかりの報告会を行ってい ます。報告会では、指導教員以外の教員からも、多面的なコメントを得ることができます。優れた論文の中には学会賞を受賞したものもいくつかあり、また、『キャリア研究選書シリーズ日本の人材形成1.プロフェッショナルの人材開発』、『同2.女性の人材開発』、『同3.雇用形態の多様化と人材開発』、『同5.国際化と人材開発』(ナカニシヤ出版、2006~2007年)などとしても公刊されています。

皆さんは、これまで他者と協業するなかで、人材や組織に関わる様々な 課題に直面してきたのではないでしょうか。これらの課題を他者にも理解 できるよう客観的に整理し、伝え、課題が生じる原因を解明することをつう じて、解決策を提示することを、私たちはアカデミックな観点からお手伝い したいと思っています。このようなアカデミックアプローチは現場での実践 とは異なり、先行研究の探索や論理的思考を用います。最初はとまどうか

もしれませんが、これ までの修了生たちの 経験から、アカデミッ クアプローチを習得 することの意義は、ビ ジネスでもきわめて大 きいと、私たちは確信 しています。



●教員紹介

教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ	
小川 憲彦 教授	組織社会化、組織と個人の適合	佐野 嘉秀 教授	人材マネジメント、雇用システム	
奥西 好夫 教授	雇用・人事制度の統計分析、国際比較	長岡 健 教授	職場学習、組織エスノグラフィー	
岸 真理子 教授	組織と情報、組織コミュニケーション	西川真規子 教授	ジェンダーと労働、仕事と生活	
佐野 哲 教授	労働力需給調整システム、社会政策	戎谷 梓 准教授	異文化間マネジメント、国際チームマネジメント、 グローバル人材	

主な開講科目

人的資源管理論、キャリアマネジメント論、人事制度論、労働市場論、労使コミュニケーション論、経営組織論、組織行動論、経営情報論、国際人事、 人材・組織マネジメント演習、ワークショップ(人材・組織マネジメント)

*他に夜間コース共通科目(6頁に掲載)がございます。

●MBA修了生·現役生の声

アカデミックアプローチを実践し、成長する時間

私は人材ビジネス部門での就業支援の業務に就いていました。その中で、求 人企業の経営課題や求職者のキャリア志向など潜在的なニーズを先読みして アウトブットする必要性を感じました。そこで、専門的に経営と人的資源管理を 学ぶことができるコースがあるHBSへの進学を決めました。

HBSの特徴は、学んでみたいという知的好奇心を「広げる」「高める」「深める」という3方向から成長促進する環境が整っているということに尽きます。

最初に「広げる」点は、学びと人脈です。HBSではコースや研究科を越えて科目履修が可能なため、コース以外の学びや人脈を広げやすいです。

次に、「高まる」点は、視座です。授業やワークショップでは、組織や市場など高い視点から俯瞰して考えることができ、より本質的な目的を捉えて意見や 議論が出来るようになりました。

そして、「深める」点は、研究テーマや自分自身との向き合い方です。修士論

曽根 悠子さん (2020年3月修了) パーソルワークスデザイン株式会社

文の執筆では、自分自身が設定したテーマを指導教官とより深く分析し、考察を繰り返し行います。指導の中では検討することが多く、テーマにも自分自身にも深く向き合うため、先が見えず苦しい時期もあります。その中でも私は、指導教官の佐

ことが多く、テーマにも自分自身にも深く向き合うため、先が 見えず苦しい時期もあります。その中でも私は、指導教官の佐 野先生の丁寧で適切なご指導により、新たな視点をアウトプットすることが出来

ました。その時の喜びは他では得られないとても良い経験になりました。 HBS修了後、現在は転職をして人事部の人材開発施策を担当しています。

HBS修了後、現在は転職をして人事部の人材開発施策を担当しています。 キャリアにおいての軸も明確になり意思決定が出来るようになりました。そして、HBSで共に学んだ大切な仲間や、尊敬する先生と修了後も繋がりが持てることがとても嬉しく、励みになっています。

もしも働く中で課題に感じていることがあり大学院への進学を検討されているのであれば、HBSはその課題意識をバネに成長できる環境があると思います。



2024年度 マーケティングコース

猪狩 良介 准教授

マーケティングを深く学びたい人のために

マーケティングコースでは、実務での豊かな 経験を持ち、研究者としても国内外で業績を 積んでいる教授陣が、皆さんをお待ちしてい ます。「マーケティング論」、「流通システム論」、 「製品開発論」、「消費者行動論」、「サービ ス・マネジメント論」といった専門科目で理論

を学習し、「マーケティング・リサーチ論」、「統計データ解析」で調査・分析の方法論を身につけ、そして時流にあったテーマで開催される「ワークショップ」で、多数のゲストスピーカーと参加者同士の活発な討議を通して実践的に学び、マーケティングを体系的に深く理解することができます。

1年次には、こうして学んだ理論と実務での課題を照らし合わせ、自分なりの研究課題を膨らませていきます。このことが、今までにない問題意識を持つ研究やビジネスのアイデアをもたらす可能性を高めます。少々難しそうに思われるかもしれませんが、「この理論は何か現実とは違うかも」、「この理論の考え方に当てはめると、現実の問題がクリアになりそう」といった直観的なひらめきで充分です。1年次の終わりには、研究計画の報告を行い、研究テーマに近い専門分野のマーケティングコースの教員が、ゼミ指導教員となります。

とはいえ、「マーケティングの知識もないのに、そんなに上手く研究できるのだろうか」と不安に思うかもしれませんが、心配ありません。皆さん

自身の努力も必要ですが、講義での数多くの仲間との議論や学習によって、楽しみながら理論や方法論を身につけていくことができます。さらに先輩や卒業生もアドバイスをしてくれます。同期や先輩との関係は、マーケティングの深い理解をもたらすだけではなく、かけがえのないネットワーク構築にもつながります。

2年次には、演習(ゼミ)において、教員による丹念な論文指導のもと修士論文を作成していきます。6月と11月に開催される2回の中間報告会では、その途中経過をコースの全教員に報告し、専門的なアドバイスを受けます。このように、担当教員だけが指導するのではなく、コース全体が協力して、皆さんの修士論文の完成度を高めていきます。さらに、卒業後に修士論文を磨いて、マーケティング系の学会発表に臨んだり、博士課程に進んで研究者を目指すことも珍しくありません。

皆さんの研究課題は、我々教員にとっても、 実務とアカデミックの新 たな接点となりえます。 皆さんと一緒に、マーケ ティングの新しい研究 ができることを期待して います。



●教員紹介

教員名		研究テーマ	教員名	研究テーマ	
	木村 純子 教授	農産物マーケティング、地理的表示保護制度、地域 活性化	西川 英彦 教授	デジタルマーケティング、ユーザーイノベーション	
	竹内 淑恵 教授	広告コミュニケーション効果、ブランド・マネジメント、 消費者行動	横山 斉理 教授	流通システム、リテールマーケティング	
	田路 則子 教授	製品開発イノベーション、ハイテク企業の成長戦略	猪狩 良介 准教授	消費者行動の統計分析、広告効果測定、ベイズ統 計データ分析	
	新倉 貴士 教授	消費者行動、ブランド・マネジメント	長谷川翔平 准教授	購買履歴データの統計分析、マーケティング・サイ エンス	

主な開講科目

マーケティング論、消費者行動論、マーケティング・リサーチ論、製品開発論、マーケティング・サイエンス論、サービス・マネジメント論、流通システム論、国際マーケティング論、物流管理論、定性的方法論、マーケティング演習、ワークショップ(マーケティング)*他に夜間コース共通科目(6頁に掲載)がございます。

●MBA修了生·現役生の声

HBSで得たさまざまなもの

私は市場調査の会社に新卒で入社してから10年ほど経過したのちに、HBS に入学しました。同じ仕事を長年続けていると、自分の限界を感じたり、行き詰まりを感じたりすることも増えてきたため、HBSに興味を持ちました。

1年次では、平日夜間と土曜日中に授業を受けました。仕事との両立になかなか苦労しましたが、同級生と一緒にワークを行う講義も多く、マーケティング専攻に留まらず、その他の研究科の方とも知り合うことができ、さまざまな刺激を得ることができました。

2年次では修士論文の作成がメインとなります。自分の問題意識から仮説をつくり、アンケートでデータを集めて実証することを1年かけて行いました。論文作成はHBSの醍醐味であり、指導教員の先生を中心に多くの先生方から懇切丁寧なご指導をいただきました。マーケティングの理論と実務を組み合わせて論文を執筆できたことは本当に有意義でした。

渋瀬 雅彦さん (2013年修士課程修了・2020年博士課程修了(博士号取得)) 横浜商科大学

修士修了後に、もっと自分の研究領域を深めたいと思い、博士課程に進学しました。最初の数年、まったくもって成果を得られずに苦しみ、もはや諦めてしまおうかと思う時期もありました。そんな時でもHBSの先生方からさまざまなかたちでアド

バイスやサポートをいただきました。そのおかげで、8年かけてなんとか無事に博士号を取得することができました。また、博士修了後に大学の専任教員に採用いただき、現在は教育活動と研究活動を並行して行っています。入学する以前は、まったくもって予想していなかったのですが、HBSで得たさまざまな経験やさまざまな人との出会いのおかげで、今のような仕事に就くことができたと思います。

HBSを検討しているみなさんの中には、いろいろなことで入学を迷っている方もいるかもしれませんが、一度チャレンジしてみてはいかがでしょうか。



2024年度 夜間コース共通科目・昼間コース

(※コース再編のためアカウンティングファイナンスコースは学生募集停止)



児玉 靖司 教授

これからの時代を担う企業経営と経営学のプロフェッショナルへ

経営学研究科は、現実の企業経営を題材としながら、組織とその中で繰り広げられる人間の営みを研究し、その成果を教育することを目的として設立された研究科です。組織や人間の営みは多様であり、単に現象を追うだけでは、現実の世界で日々生じる複雑な現象の洪水に

溺れてしまいます。しかし、表面上は異なって見える現象でも、その根源を探求していくと、共通した原理にたどり着くことがしばしばあります。混沌とした現実をより深く理解するには、原理(理論)を知っていることが重要です。理論を学び、何が重要であるかを見極めることによって、現実の理解を深めていくことが可能になるのです。経営学研究科が目指しているのは、このような思考のできる人材の育成です。より具体的には、教育研究機関・学会等で通用する高度な研究・教育成果を上げることができる研究者・教育者の育成、企業・その他の団体等において高度な経営課題に応えられる経営管理職、専門職の育成をすることを目指しています。このため、企業家養成、

人材・組織マネジメント、マーケティング、アカウンティング・ファイナンスの各コースの共通科目として、基礎的な内容や共通の方法論を学べる科目群を用意しています。

経営学専攻昼間コースは、1992年に従来の経済学専攻から独立し、専門的な経営学の教育を通じて数多くの研究者や高度職業人を養成してきました。このコースでは、経営学の基礎から応用までの理論的なアプローチに加え、現実の企業活動や社会現象を実証的に分析するためのさまざまな手法が学べます。組織、人事、戦略、アカウンティング、ファイナンス、国際経営、マーケティング、経営史など企業経営の諸側面について幅広く研究できるうえ、夜間コースの授業や他専攻の授業も受講することができます。経済学や統計学に関する科目も開講しており、総合的に企業経営を捉える視点を養うことが可能です。講義やディスカッションを通して高度な知識・理論を習得し、さらには、細やかな個別指導のもとで質の高い修士論文を作成することができます。

●教員紹介

▼教員和川					
教員名	研究テーマ	教員名	研究テーマ		
安藤 直紀 教授	企業の国際経営戦略、制度理論の多国籍企業分析 への応用	筒井 知彦 教授	企業会計と利益計算		
大木 良子 教授	競争政策の経済理論分析	入戸野 健 教授	ネットワークと知識に関する技法、確率的シミュレーションモデル		
神谷 健司 教授	財務会計基準の研究、学校法人会計基準の研究	平田 英明 教授	日本の景気動向、日本の金融システム、期待形成と 経済政策		
川島 健司 教授	資産の時価測定に関する実証的研究、資産評価の 会計基準分析、時価主義会計の学説研究	福田 淳児 教授	MCS の設計と組織学習、スタートアップ企業における MCS の発展		
岸本 直樹 教授	オプション等のデリバティブの価格理論、資産の証券化に関する経済学的分析、住宅ローンの期限前 償還、ビジネス教育の研究	福多 裕志 教授	日米企業の財務位相分析		
金 瑢晋 教授	企業の財務行動	洞口 治夫 教授	日本企業の海外直接投資		
倉田 幸路 教授	現代会計理論、EU 会計論	宮澤信二郎 教授	企業の資金調達と競争に関する戦略の相互作用について		
児玉 靖司 教授	人工知能、大規模授業配信のビジネスモデル	山嵜 輝 教授	金融テクノロジー、資産価格理論		
坂上 学 教授	XBRLと財務ディスクロージャー、財務数値の分布特性に関する研究、機械学習を応用した会計不正の発見	横内 正雄 教授	英国系海外銀行の発展に関する研究		
高橋 慎 教授	金融時系列データの統計分析	李 瑞雪 教授	新興国市場における日本企業のロジスティクス戦略、 ロジスティクス・クラスター		
髙橋美穂子 教授	会計数値に基づく企業価値評価	片桐 満 准教授	金融政策の理論分析、コーポレートファイナンス		
髙橋 理香 教授	貿易政策に関する理論および実証研究	北田 皓嗣 准教授	サステナブルマネジメント、ESG 情報開示、サーキュ ラーエコノミー		

主な夜間コース共通科目

経営学基礎 I / II、会計学基礎、経済学基礎、日本経済基礎、情報学特論、e- ビジネス論、統計データ解析、国際経営論、外国語経営学特殊 講義 1 /2

昼間コースの主な開講科目

経営学概論 | / ||、経営管理特論 | / ||、経営組織特論 | / ||、人的資源管理特論 | / ||、経営戦略特論 | / ||、国際経営特論 | / ||、マーケティング特論 | / ||、会計学入門、財務会計論 | / ||、経営分析論 | / ||、財務諸表分析、管理会計特論 | / ||、ミクロ経済論 | / ||、マクロ経済論 | / ||、金融論 | / ||、ファイナンス入門、ポートフォリオ理論入門、デリバティブ入門 | / ||、国際経済学 | / ||、国際金融論特論 | / ||、産業組織論 | / ||、日本経済特論 | / ||、リサーチ・メソッド、経営学演習 | / ||、物流管理特論 | / ||

新倉貴士 教授『ビジネスマンよ議員をめざせ!:セカンドキャリアのすすめ』(日本地域社会研究所)

本書は、「セカンドキャリアとしての議員」の魅力と「選挙マーケティング」の必要性を、実際の体験と学術的な知見に基づいて書き下ろしたものです。共著者の鈴木たつお氏は、私のゼミ修了生でして、私の「消費者行動論」を履修し、自らの選挙戦に多くの消費者理論を活用して見事に当選しました。その経験も踏まえた本書では、選挙はマーケティングであり、候補者はブランドであり、投票者は消費者であると強く提唱しております。



金 容度 教授『日本経営論』(博英社)

本書は一貫した視点から海外企業と比較しながら、日本企業の諸活動、諸領域の特徴を描き出している書物である。「日本的」といえるほど、日本企業の経営に独特なものはあったか、あったとしても、時期によってその独特なものも変化してきたのではないか、変化の中でも維持されている日本特有のものは何か、もし、独特だったとすれば、それでよかったのか、悪かったのか、どっちでもあったか。こうした質問に答えるための試みが本書である。



川島健司教授『起業ストーリーで学ぶ会計』(中央経済社)

実話と実データで学ぶ、これまでに類をみないコンセプトの会計書。簿記・会計学・財務分析・バリュエーションをこの1冊で体系的に習得。まずは、思わず引き込まれるノンフィクションのストーリーだけでもお読みください。人物、会社、決算書、すべてリアル!経営の現場で学ぶ感覚を重視、読みやすい記述で理屈を丁寧に解説。終章には約150年間におよぶ会計発展史の概要も収録。これまで悩まされた暗記学習からも解放されます。

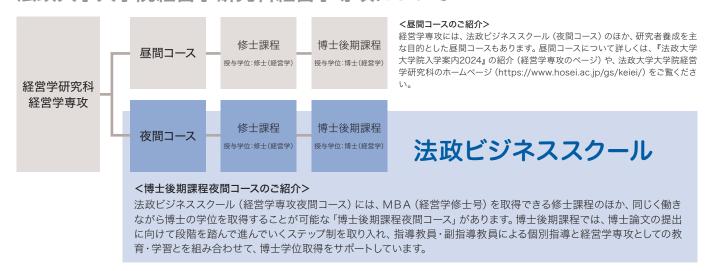


李 瑞雪 教授『業界別物流管理とSCMの実践』(ミネルヴァ書房)

本書では、物流管理とサプライチェーン・マネジメント(SCM)について、業界ごとに異なる特色があり、それを一括して論じることは難しいという視点を重視している。そのため、異なる業界における物流管理の特徴と本質を検討することが本書の一貫した狙いとなっている。研究者と実務家のコラボレーションにより、食品、住宅設備、建材、自動車、医薬品、小売業など、各業界固有の事情や、技術革新と組織改革を通じて効率的なSCMをいかに構築するかを解説しており、各業界で現在取り組まれている物流に関連する課題も紹介されている。



法政大学大学院経営学研究科経営学専攻について



学費(年額)のご案内	修士課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 570,000 円	教育充実費 80,000 円
*本学出身者は入学金が免除となります。	博士後期課程	入学金 200,000 円 (入学時のみ)	授業料 400,000 円	教育充実費 60,000 円

修士課程(夜間)は、「教育訓練給付制度厚生労働大臣指定講座」の指定を受けています。この制度は、修了後本人がハローワークへ申請することで、教育訓練経費(入学金と初年度授業料)の20%(上限額10万円)の教育訓練給付金が支給されるものです。

入学試験について

法政ビジネススクール (修士課程・夜間コース)の社会人入試は2回あり (11月、2月予定)、口述試験によって行われます。出願の際に研究計画書を提出していただきますが、口述試験ではこの研究計画書について希望コースの教員が面接にあたります。募集人員は各コース10名前後です。出願期間、入試日程、合格発表日程については入試要項をご確認ください。

対面授業・オンライン授業について

通常は対面授業を実施していますが、新型コロナウイルス感染症に対する行動方針の大学の行動制限レベルによりオンライン授業も並行して実施しています。本学では感染拡大予防マニュアルを整備するとともに、各教室には消毒用アルコール、飛沫防止用パーティションなどの防止対策を講じております。また、学内に適宜メールなどを通じ、感染症の状況や授業実施方法に関する情報を伝達しています。詳しくは以下のウェブサイトをご参照ください。

新型コロナウイルス関連まとめページ https://www.hosei.ac.jp/info/article-20200521145917/

■法政大学大学院へのアクセス 東京メトロ 東京メトロ有楽町線・南北線 有楽町線·南北線 都営地下鉄大江戸線 市ヶ谷駅5出口2分 法政大学大学院 飯田橋駅B2a出口 ○東京メトロ有楽町線・南北線 外堀通り 市ヶ谷駅下車徒歩2分 ■JR線、都営新宿線・大江戸線、東京メトロ東西線 釣ぼり 外濠 外濠 至新宿 至御茎 /水 JR総武線 ■JR市ヶ谷 JR飯田橋 🗆 市ヶ谷または飯田橋駅下車徒歩10分 外濠校舎 交番~ Ŧ ボアソナート 交番 富士見校舎 韓国通り ・・ 東京メトロ有楽町線・ 東京メトロ東西線 都営地下鉄新宿線 飯田橋駅A4出口 靖国神社 市ヶ谷駅A1出口 都営地下鉄新宿線 市ヶ谷駅A4出口

■法政ビジネススクールについてのお問い合わせは

法政大学大学院事務部(法政大学大学院棟1階)

〒162-0843 東京都新宿区市谷田町2-15-2 TEL.03-5228-0551 FAX.03-5228-0555 E-mail: i.hgs@ml.hosei.ac.jp